平成32年9月開庁予定

新角館庁舎基本設計が完了しました

市民協働を活性化させる まちづくりの拠点「新角館庁舎」

新角館庁舎は、角館町・田沢湖町・西木村の 2町1村が合併し、「小さな国際文化都市」を目指す仙北市にとって、新たな市民協働の核としての役割が求められています。

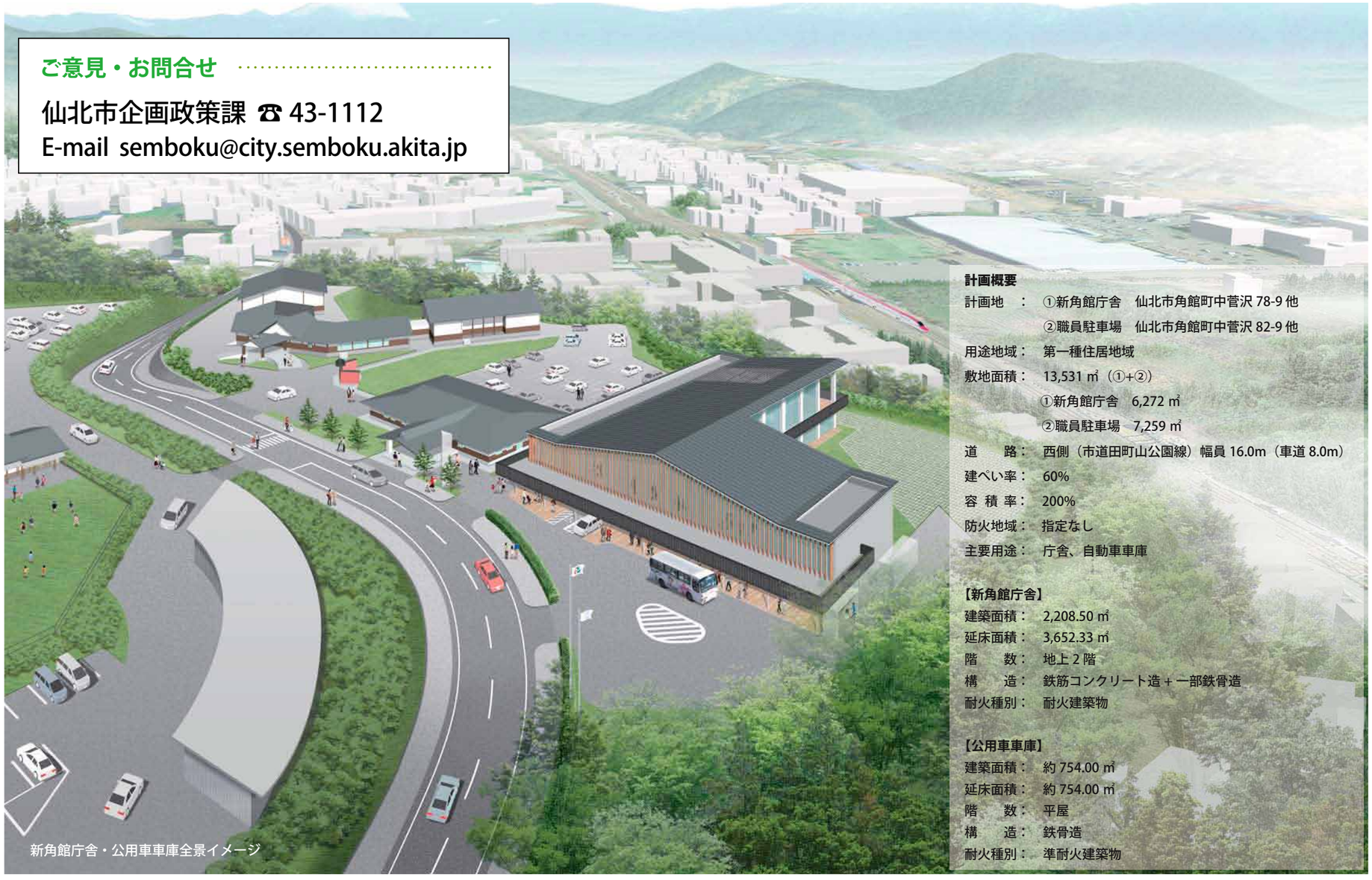
市民協働によって市民が主体的にまちづくりを行うことができる場として新角館庁舎をつくります。

また、城下町角館の屋根が連なる風景を大切に、市民が安心して訪れ、利用できる新角館庁舎を計画します。

新角館庁舎エントランス

ご意見・お問合せ

仙北市企画政策課 ☎ 43-1112
E-mail semboku@city.semboku.akita.jp


新角館庁舎・公用車車庫全景イメージ

計画概要

計画地 ： ①新角館庁舎 仙北市角館町中菅沢 78-9 他
②職員駐車場 仙北市角館町中菅沢 82-9 他
用途地域： 第一種住居地域
敷地面積： 13,531 ㎡（①+②）
①新角館庁舎 6,272 ㎡
②職員駐車場 7,259 ㎡
道 路： 西側（市道田町山公園線）幅員 16.0m（車道 8.0m）
建ぺい率： 60%
容 積 率： 200%
防火地域： 指定なし
主要用途： 庁舎、自動車車庫

【新角館庁舎】
建築面積： 2,208.50 ㎡
延床面積： 3,652.33 ㎡
階 数： 地上 2 階
構 造： 鉄筋コンクリート造＋一部鉄骨造
耐火種別： 耐火建築物

【公用車車庫】
建築面積： 約 754.00 ㎡
延床面積： 約 754.00 ㎡
階 数： 平屋
構 造： 鉄骨造
耐火種別： 準耐火建築物

1. 市民が利用しやすい庁舎

行きたい場所がわかりやすく 市民が立ち寄りたくなる新角館庁舎

地域の創意工夫による行政運営、生活圏の広域化、多様化する市民のニーズ、少子・高齢化など、仙北市を取り巻く環境に様々な変化が生じています。

これらの環境変化の課題に対し、①市民協働、②行政機能の集約と分散、③人材育成をポイントに、市が掲げるまちづくりの方針を具現化できる新角館庁舎をつくります。

2. 市民が集い、親しみやすい庁舎

市民活動が周辺施設やまちへと連続し 市民が集う新角館庁舎

新角館庁舎は、市民や団体等が活動できるスペースをまちとの接点に計画します。様々な市民活動を積極的にまちへ発信し市民交流を発展させます。また、内装材に木を使い温もりあるデザインにより、居心地のよさ、親しみやすさがあふれる新庁舎とします。

3. 防災拠点としての庁舎

あらゆる災害を想定した BCP （万全の事業継続型）庁舎

市庁舎は、あらゆる災害に対し市民を守る砦となります。そのためには、災害発生直後から庁舎機能を十分発揮できることが重要となります。あらゆる災害を想定し、必要な機能を設計段階から計画することで、万全なBCP庁舎となります。

4. 行政需要の変化に対応できる庁舎

行政組織の変化・市民協働の充実にも 柔軟に対応できる平面計画

市庁舎には、様々な社会変化による市民需要に柔軟な対応が求められます。また、市内の3庁舎の役割や職員数の変化などにも柔軟に対応できる建物をつくります。さらに、市民協働の充実や要望にも対応できる、柔軟性の高い建物をつくります。

5. 環境や景観に配慮した庁舎

自然エネルギーを活かし 人や環境にやさしい計画

角館の気候、文化が培ってきた屋根形状を継承し、またそれを活かし、自然エネルギーの計画的な利用を図ります。屋根や庇を活かした自然光の利用と制御や換気計画、地中熱を利用した路面融雪や床暖房を計画し、角館らしい環境・景観配慮のある建物をつくります。

6. 徒歩による来庁者に配慮した庁舎

幅広く連続する庇により 雪や雨でも安全・安心にアプローチ

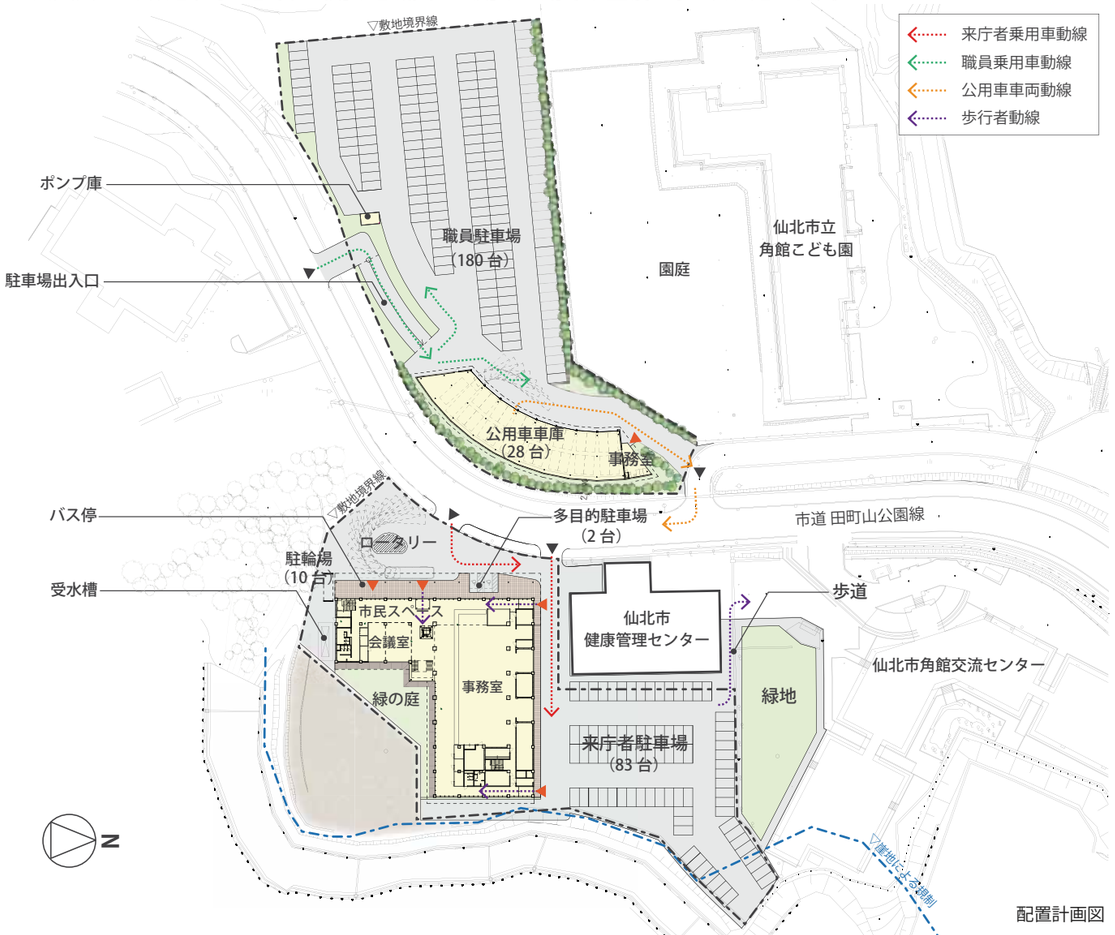
高齢化が進む中、市民バス等公共交通や徒歩による来庁者が増加する傾向にあります。また、観光客の駅や空港からの主な移動手段は公共交通となっています。

徒歩＆公共交通機関に対応した、市民から観光客まで誰もが訪問しやすく季節・天候に左右されない施設整備を行います。

配置計画
周辺施設に配慮した敷地利用計画

新角館庁舎
・敷地に接する市道に沿ってイベント利用が可能なロータリーを設け、バスやタクシーが寄り付きやすい計画とします。
・建物前面に広く長い庇を設け、天候の変化に影響されない安全な外部空間を計画します。

職員駐車場
・公用車車庫は敷地形状に沿った扇形平面形状とし、敷地の有効利用を図ります。
・出入口を2か所とすることで、公用車と職員の乗用車の動線が重複しない計画とします。

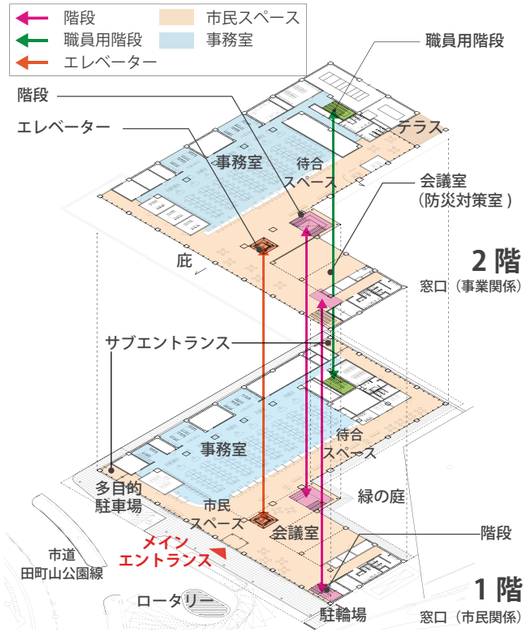


配置計画図

平面計画
わかりやすい施設構成

1階平面計画
・ロータリーに面したわかりやすい位置にメインエントランスを設けます。また、来庁者駐車場や健康管理センターからも出入りしやすい位置にサブエントランスを設け、使い勝手のよい計画とします。
・市民スペースのわかりやすい位置に総合案内やエレベーター、階段を設け、目的窓口へ迷わずアクセスできる計画とします。
・市民開放エリアを外に面して計画し、日常的に市民や観光客が集うことができるスペースとします。
・1階会議室は待合スペースと市民スペースに面し、全開放可能な可動間仕切りとし、様々な使い勝手に柔軟に対応できる計画とします。

2階平面計画
・2階の会議室は非常時には防災対策室として機能する会議室を計画し、すぐそばには防災設備専用の収納庫を設けることで、迅速に対応可能とします。
・待合スペースは勾配高天井とすることで、開放感ある空間とします。



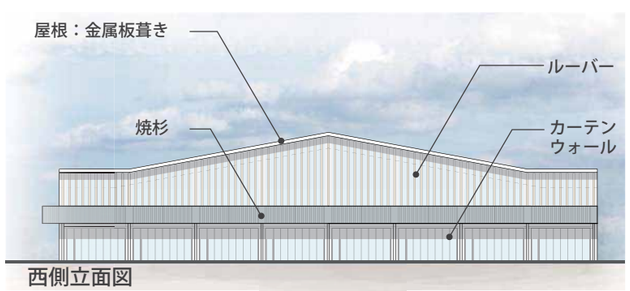
内装計画
木質の親しみやすい内装

・新角館庁舎は木を基調とした内装とし、居心地のよい親しみがわく角館らしい雰囲気の庁舎とします。
・市民ロビーや窓口は、木の椅子やテーブルを採用し、木が香る、やさしく市民を迎え入れる、親しみやすい庁舎とします。

市民スペース

外観計画
角館のまちなみを継承する屋根のある庁舎

・屋根は切妻屋根の無落雪型とし、妻面を正面に向けたデザインにより、周辺の施設群との調和を図り、地域全体が市民や観光客を迎え入れる、角館らしい佇まいを演出します。
・新角館庁舎の顔となる西側外観には角館の武家屋敷に散見される格子や黒板塀をモチーフとした外装を用い、西日の遮光と併せ、角館らしいまちなみの形成に寄与します。



西側立面図

伝統的な屋根が連なるまちなみ

格子がつくる立面

黒板塀がつくる角館のまちなみ

事業費
概算工事費

区　分	金　額	備　考
① 新角館庁舎建設工事	1,418,136,000	
②公用車車庫建設工事	96,789,000	
③外構工事	117,150,000	
小　計	1,632,075,000	税別
消費税 (8%)	130,566,000	
合　計	**1,762,641,000**	税込